

### 3. 3. 4 発泡体の耐アルカリ性

#### (a) 試験体の作製

3.3.3(1)独立気泡率と同様に発泡硬化物を作製後、前述の(2)圧縮試験と(3)曲げ試験と同様に成型加工し、これを試験体とした。

#### (b) 試験方法

試験体をセメント飽和水(pH12程度)に所定時間浸漬した後に取り出して25℃で24時間放置してから各種試験を行った。

#### (c) 試験結果

試験結果は、表-3.3.8の通りである。NLペースト(S)の圧縮強さと曲げ強さは、1週間後に十数%の強度低下が認められたが、それ以降8週間までの強度低下は認められなかった。一方、NLペースト(W)は、8週間までの強度低下は認められなかった。また、2週間から8週間までの重量変化も認められなかった。従って、NLペースト(S)と(W)のいずれも十分な耐アルカリ性を持っている。

表-3.3.8 発泡体の耐アルカリ性の試験結果

NLペースト	項目	初期	1週間	2週間	4週間	8週間
S	圧縮強さ (MPa)	0.18	0.14	0.12	0.12	0.13
	曲げ強さ (MPa)	0.61	0.55	0.53	0.54	0.54
	重量変化率 (%)	-	-	9.2	-	9.3
W	圧縮強さ (MPa)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.16
	曲げ強さ (MPa)	0.41	0.40	0.40	0.40	0.41
	重量変化率 (%)	-	-	8.7	-	8.7